

## 標準化の8つの掟

1954年のフィラデルフィア総会（アメリカ）で、各国代表団の小グループが標準化業務の経験をまとめたいくつかの要点を記載した。これらが軽い意味合いで“標準化の8つの掟”として知られるようになり、非公式に広く伝えられると同時に多くの雑誌でも取り上げられてきた。現在のIEC会議参加者の多くはそれを見たことがないかもしれないので、余興のためにもう一度その掟を広めたいと思う！

- **標準化とは犠牲だ。**  
自分自身のアイデアがすべて実現されると思って参入するな。
- **“これが我々の習慣だ” と言っては議論の余地がない。**  
他の国々の習慣も同じくらいよいかもしれない。
- **それぞれの提案の固有のメリットについて判断しなければならない。**  
経験と公平な判断を十分に念頭に入れなければならない。
- **その場で理想的な解決に至らない場合、最良の妥協案を採択しなければならない。**  
何も決定しないよりはましだ。
- **自国に有利な決定を下せなくても、他国の意見を非難するな。**  
自国の規制と対立しても、国際的には大いに助けになることもある。もしかすると、将来は自国でも採用されるかもしれない。
- **あまり重要でない事項の議論に固執するな。**  
時間の無駄である。
- **パラグラフ（段落）の順序を変えようとしないこと。また、編集上のアレンジについて議論しないこと。**  
誤記の修正や、次の版に向けての大幅な再修正の検討は、編集委員会が喜んで引き受ける。
- **標準化とは協力だ。**  
成功すれば、すべての関係者が大きな教訓と物質的利益を得る。